

海外新話卷之三

英將義律到天津江事

英夷定海の島地を攻とり是を小佔據するの事あり  
む近頃廣省の虎門福省の厦門をも奪ひしる  
より北京に進ありしれバ帝深く宸襟を悩され  
先諸廷臣の評議を任せ林則徐なる一廣東總督の  
官を去らしめ伊里布琦善の兩大臣は廣東福建浙  
江の諸省を下向して迎接ありしとの沙汰あり英將  
義律は定海を占めて早くも此事が傳へ國に喜で曰我  
惡む愛の林則徐官爵を奪ひ去らしよ六清國の端

將士更不忌憚する小国者あり我自ら北京に在  
天津に小舟を遣り入ると直に都城に到り親しく清主  
の前小控と和議を結ぶ既小は方へ奪ひたる所の  
定海及び厦門厦門の三處をも差返すといふよつて  
廣東諸物の交易以前の如く取柄ひる我英吉利國  
の大利を失ふとせと義律即ち大船小舟を遣り英船  
一艘を後小隨ひ七月中旬定海の濤を襲ひ遼東岫  
を乗廻り天津の濤をぞ着船せし時伊里布は漸に小  
刻とんとする途中小控は由茲國を逆走北京小入附の  
國の一大吏ありと譽きその地より引返す一兩月が歴せし

て天津小島より乃々大船一艘蒸氣船一艘入津を要より  
伊里布の早義津小島會ふ一更の子細伝聞ゆる小義津  
春へ我小島小到り皇帝の前小あひて奏進いこ一更と  
あり願ふ此地より上陸せんと是を因て伊里布の如く  
思案あり乃に小今彼等小島よりある都下人心の騒  
動大方あるを候令るの天津たりとい人ども帝城を去  
る更咫尺の地あれば一日も早く退却せむる小如きと  
昂ち義津小島より我小不肖ありとい人ども天子此大命  
を蒙りてあの地小下り何事小相らむ願ひの能あるに  
我小告給人と云に乃に義津とて我小御邊より

版言と一強と一元來は貴國のむろく數百艘  
の軍船は一か假使の去來廣東の地は林則徐の改  
変暴逆を道あるやうく英國の人民と我々服せ  
故に我等今から大軍船を發し貴國海邊の諸  
城を攻撃し終は林則徐の首をきりて國民のあつを  
慰んと欲するなり今則徐官爵を奪れ御意あるに  
小璣善のあはる廣東省の諸省を巡撫せしむるに  
我等の遺恨あり以てのこゝ親交を結ひ廣東の  
地は諸物の交易口岸あり我々棄てざるの定海  
ありひは虎門厦門等の地はのちと早速返還し數百

艘の軍船直ふ帰帆まへ—と云られバ伊里布まへ  
参入と願ひの地りむた我今ようお京ふよう奏聞を  
ふあててと定めて針客ある—然れどもあの矢津の倭  
ハ外國の使船破流のこゝろふあをも依て勿く出帆—  
廣東府不到り命のつかひ結給ふへ—既ふ琦善彼  
地之下向せ—ふよのと要綱返答の最ふ地にてある  
ら平素人より申達まへ—と告り給ふ英將義深を  
もち柔福を—即日あの倭船退船—還ふ廣東府  
あを向ひられ

琦善於廣東私議和事